

第 7 章

水 産 業

第 7 章 水 産 業

概況

大阪府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれる沿岸漁業である。

大阪湾は淀川、大和川をはじめ、多くの河川が流入し、飼料生物は豊富で、瀬戸内海の中でも上位にランクされる生産性の高い漁場となっている。また、南北に連なる海岸線は、府内9市3町にまたがっている。

主な漁獲物は、魚類では「いわし類」「このしる」が中心で、次いで「いかなご」「すずき」、その他「えび類」「しゃこ」「たこ類」となっている。

また、漁港は平成14年3月末現在で12港、そのうち第1種が10港、第2種が2港となっている。

海面漁業経営体・使用漁船数

平成14年1月1日現在で実施した漁業動態調査によると、府内における海面漁業経営体数は626経営体で、これを市町別にみると、岬町が122経営体で最も多く、次いで阪南市が89経営体、岸和田市が87経営体、泉佐野市が85経営体となっている。

また、経営組織別にみると、個人経営体が600経営体で、全体の95.8%を占めており、以下、共同経営が25経営体(構成比4.0%)、漁業生産組合が1経営体(同0.2%)となっている。

経営体が調査期日前1年間に使用し、調査日現在も保有している漁船の総隻数は、987隻で、その内訳をみると、動力船が951隻(構成比96.4%)、船外機付船が36隻(同3.6%)となっている。

動力船についてトン数規模別にみると、「5～10t」が510隻

(構成比53.6%)と最も多く、次いで、「1～3t」が236隻(同24.8%)、「3～5t」が133隻(同14.0%)、「10t以上」が60隻(同6.3%)の順となっている。

海面漁業漁獲量

平成14年の総漁獲量は1万7388tで、これを市町別にみると、岸和田市・貝塚市が1万1287t(構成比64.9%)と最も多く、次いで、岬町が1431t(同8.2%)、泉佐野市が1367t(同7.9%)となっており、この2市1町で全体の81.0%を占めている。

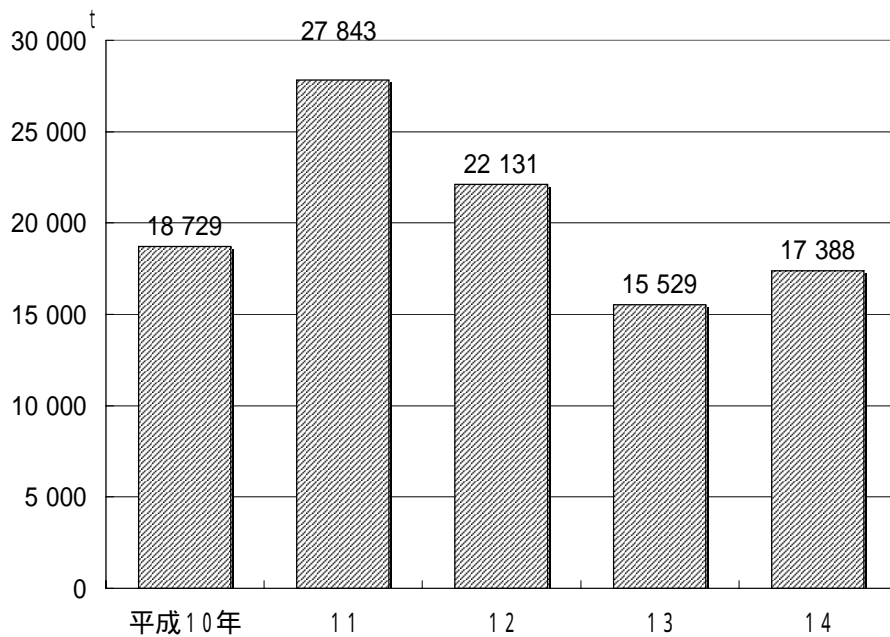
また、漁業種類別にみると、2そうまき巾着網が9859t(構成比56.7%)、ひき回し船びき網4631t(同26.6%)、小型底びき網1570t(同9.0%)の順となっており、この3漁業で全体の92.4%を占めている。

魚種別では魚類が1万6598t(構成比95.5%)と漁獲量のほとんどを占めており、以下、その他の水産動物類233t(同1.3%)、えび類200t(同1.2%)の順となっている。魚類のうち「いわし類」が1万495tで最も多く、全漁獲量の60.4%と過半数を占め、次いで、「このしる」が1876t(同10.8%)、「いかなご」が1778t(同10.2%)となっている。

内水面漁業漁獲量

平成14年の内水面漁業漁獲量は26tで、魚種別では、「さけ・ます類」が23t、「あゆ」が3tとなっている。

海 面 漁 業 漁 獲 量 の 推 移



市町別、海面漁業漁獲量の割合（平成14年）

